

秋田大学医学部附属病院の紹介

沿革

秋田大学医学部は、1970年に戦後初の医学部として創設されました。県民の強い熱意が原動力となって、旧県立中央病院を国に移管して医学部附属病院としてスタートし、移管時は秋田駅前（現：秋田県立循環器脳脊髄センター）でしたが、1976年に秋田駅から東に2kmの本道地区の田んぼの中に新病院を竣工し今に至っております（当時の状況は1期生で作家としても活躍されている南木佳士先生の小説「医学生」に詳細に記載されています）。

1994年1月に特定機能病院、2005年5月にはISO9001:2000の認証取得しております。2007年都道府県がん診療拠点病院、2021年4月には高度救命救急センターが開設されました。病院再開発は2009年に始まり2015年に完了となっております。病床数615床、1日の外来患者数は1,100人程度、職員数は約1,200名です。

病院理念・部門目標

病院理念

- ・良質で高度な医療を安全に提供する
- ・人間性豊かな優れた医療人を育成する
- ・先進的な医療の開発と推進に努める
- ・地域医療の中核的役割を果たす
- ・医療を通じて国際貢献に努める



この理念に基づき全職員は、自らの使命を果たすことが求められています。また、中央放射線部では病院理念やISO目標を踏まえ、年度当初に部門目標を設定しております。令和4年度の部門目標は「組織人として 医療人・研究者として 自己のスキルアップを行い さらに、周囲に還元しよう」と設定し、各々が自分で何をすべきかを考え具体的な目標設定を行い、達成・実現に向けた活動を行っています。

中央放射線部について

1979年10月に病院内4つ目の中央診療施設として発足しております。現在の人員構成は、技師長、副技師長2名、主任技師8名、常勤19名、任期付常勤4名、非常勤2名の計35名（うち女性技師は11名）です。20代10名、30代15名で平均年齢は35歳。年代の構成はほぼ他の大学病院と同様と思います。部内では毎日の朝会、月2回の定例会を行っています（Teamsによる情報共有も行っています）。また、被ばく管理やワークステーション管理など直接業務に関連したことは主任中心（分掌して）で行いますが、その他縦割りにしたグループ分けを行い、共用物品の管理、図書・掲示など業務以外での担当（グループ）

を決めて副主任クラスをリーダーとして活動を行うことで、スタッフ間で良好なコミュニケーションを図っています。

時間外勤務体制は、夜勤 1 名、休日日勤は 1.5 名の体制です。時間外 IVR 始めとして、秋田県内全ての急患を受け入れている状況であり、加えて 4 月より高度救命救急センター開設に伴い、県内唯一の機関としてスタッフ育成が急務です。今のところ、特殊検査・治療は当直者が呼出す対応としていますが、重症症例の搬送が増えてきており当直者の一時対応等スタッフの教育、勤務体制の見直しを進めています。

現在の機器保有状況は、一般撮影室 5 室（2 室に歯科装置あり）、乳房撮影室、骨密度測定室、透視室 3 室、血管造影装置 4 室（うちハイブリッド手術室 1 室）、ポータブル装置 6 台、移動式 C アーム装置 4 台、CT 装置 2 室（256 列 DE-2 台）、MR 装置 3 室（3T-2 台、1.5T-1 台）となっています。核医学では SPECT 装置 2 台、PET-CT 装置はデリバリでの検査となっております。¹³¹I 内服や ¹²⁵I 密封小線源治療は核医学部門が担当します。放射線治療では、リニアック装置 2 台で、うち 1 台は高精度治療を主に行っています。¹⁹²Ir-RALS 装置は県内唯一の設置となっておりコンスタントに治療が行われています。

2015 年まで病院再開発が行われましたが、中央放射線部内では患者通行エリアのみの改修で、直接にはあまり恩恵に預かれませんでした。加えて以降数年間は改修費用返済のため、装置の更新が据え置かれましたが、2020 年によろやく一般撮影装置（4 台、骨密度測定装置）、透視装置（3 台）、循環器撮影装置（2 台）、MRI(2 台)の更新、もう 1 台の MRI は Up Grade を行いました。2020 年にはハイブリッド装置が（国立大最後での）稼働となりました。2021 年度には核医学部門にて PET-CT を含む 3 台の更新を行ったところです。今後も装置更新スケジュールが組まれていますので、順次進めていくところです。

人材育成について

新人教育、新配属教育としては、モダリティごとに求めるレベルをチェックリストに沿って自己評価と主任評価で進めています。また、若手のノンテクニカルな部分の教育については、本会のスキルモラルクラウドシステムで行っています。以降のノンテクニカルなチェックとして、「社会人基礎力」の自己評価を行い、客観的評価を行います。テクニカルな部分では少ない人員と勤務体制のため、本人の専門とする部門に固定できない悩みはありますが、一方ではジェネラリストとしての成長は期待できます。副主任においては、配置の頻度を上げて部門の管理も担当させ育成します。

新入職研修（新人）は、撮影室・出張撮影・CT を中心に経験し、途中 2 週間程度ずつ血管撮影部門と手術室にも研修配属し、新人とはいえ当直時の初期対応ができるように育成します。8～10 か月をめどに当直業務に入ることが目標です（担当主任の評価後）。以降の新配属研修は、OJT が中心となりますが、数か月（部門により）重点で研修を行います。主任の評価が得られればローテーション入りとなり、診断系において若手は 2 回目 4 週間、以降は 2 週間で配置が代わります。

その他、看護部・薬剤部・医療技術系の5部門で多職種連携教育（IPE）チームを立ち上げ、院内の医師を含む全職員対象～管理職・主任などターゲットを絞った研修会（e.g.ハラメント、コーチング）も開催しています。（横の繋がりが強いのが本院の強みです）

秋田県ってどんなところ？ 秋田大学ってどんな感じ？

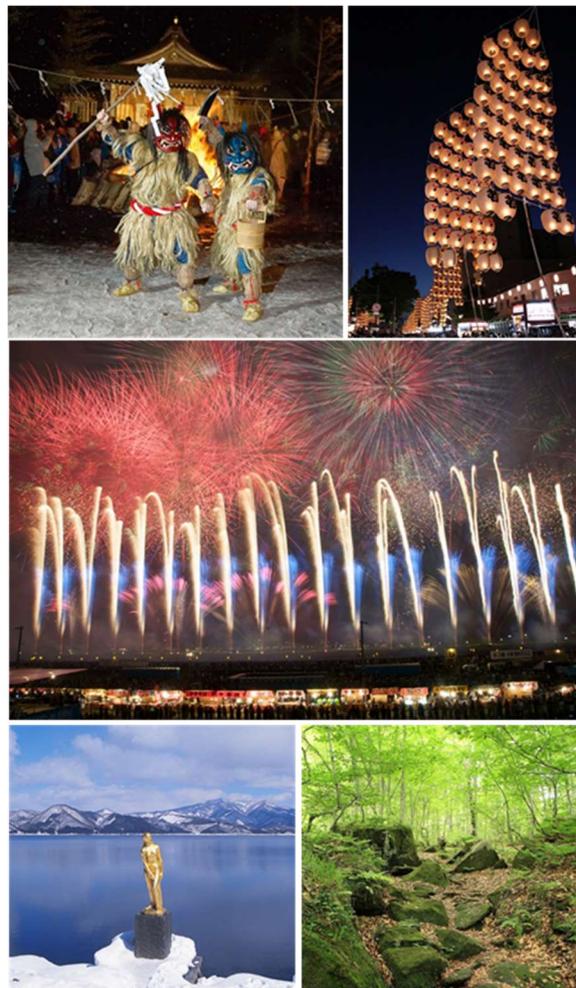
面積は東京都・埼玉県・千葉県の1都2県の和とほぼ同等で、地形も内陸部は豪雪地帯、地形は山が多く、海岸部の平地と内陸部の盆地を中心に市や町が分散しています。また、全国で最も進んでいる高齢化（高齢先進県）や、これに伴う人口減少（現在約96万人）などの厳しい社会情勢を抱えています。

良く言うと、豊かな自然環境に恵まれ、気候は夏が短い北国型ながら、季節の区分がはっきりしています。自然観光地や温泉も多く、季節ごとに様々な祭りなどもあります。生活を取り巻く環境では、物価の安さ、犯罪・交通事故の少なさなど、安全・安心に満ちた点が多く、暮らしやすい環境にあります（要するに田舎です）。自慢は「秋田→美人・米・酒・犬」というところでしょうか。右の写真は代表的なお祭りと自然景観になります。他にもおいしい食べ物もあります。ぜひ、足を運んで頂ければと思います。

秋田市内であっても自家用車所有は必須で、職員のほとんどは車通勤です。なので「帰りに、ちょっと」というのはありませんが、若手のスタッフは業務終了後、市内の体育館にスポーツサークル登録をしてバスケット同好会活動、休日は釣り同好会と活発に活動・交流しているようです。また、診療支援部設立に向けて、院内の医療技術部門の技師（士）長で準備中です。これを機会にさらに他の部門との情報共有の機会を作り、連携することでより円滑に業務が進むことを期待しているところです。

おわりに

首都圏からも距離も時間も遠く、中々おいでになる機会が少ないと思います。夏祭り良し、秋も良し、新酒の季節も良しです。装置の更新も進んでいますので、観光予定の中に当院での研修も組んで頂ければと思います。ご連絡、お待ちしております。



なまはげ | 竿燈まつり
全国花火競技大会
田沢湖 | 白神山地